

実績報告書

届出者	住所	兵庫県神戸市東灘区深江浜町36-7	氏名	株式会社ポオトデリカトオカツ 代表取締役社長 篠崎 由紀夫
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		コンビニエンスストア向け、弁当・おにぎり・サンドイッチの製造		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	3,436 t-CO ₂	3,432 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,662 t-CO ₂	3,654 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	6.9 %	-4.9 %	0.2 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-4.9 %	0.3 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産高)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<ul style="list-style-type: none"> ・空調設備の入替やLED照明の入替等を行い削減に努めております。 ・製造については計画生産が出来ないため、昼夜での製造のシフトが出来ない。電力負荷を少しでもシフトするために、冷凍機のデフロスト時間の設定調整等は対応済み。 	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

・工場設備担当者より1名、省エネ推進担当者を選任し、各部署への省エネ取組への落とし込みと、毎年度の設備投資計画に於いて、エネルギー負荷の高い設備の更新を省エネの観点を含め計画実施。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	東大阪工場	コード (1111) 省エネ活動の 企画推進	工場の保全担当者を中心に、重負荷時の 電気・ガスの使用量測定及び省エネ取組 推進を行う。計測については27年度より 取組開始 (検証中)	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	平準化				
2	GHG排出	東大阪工場	コード (1113) 機械設備運転 管理	生産量に併せての台数制御、不要時の運 転停止、電源OFFをこまめに実施し、現 場巡回管理を行う。(平成27年度より実 施)	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	平準化				
3	GHG排出	東大阪工場	コード (1216) 空調機器更新	加工場空調機 (5台) を省エネタイプへ更新 (全体で8台あり、5台更新済。残り3台)。 平成27年度1台更新済み。平成28年10月2台更 新済み。平成29年6月2台、平成29年10月1台 更新予定。	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	平準化				
4	GHG排出	東大阪工場	コード (1216) 空調機薬品洗 浄	重負荷時期の前に空調機の薬品洗浄を実 施。空調の効率改善を図る。(平成27 年、平成28年実施済)	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	平準化				
5	GHG排出	東大阪工場	コード (1216) 冷凍機入替	原料冷凍庫・原料冷蔵庫冷凍機の入替 (省エネタイプへ入替)。(平成27年度 1F原料冷蔵庫入替済み。2F原料冷凍庫入 替検討中)	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	平準化				
6	GHG排出	東大阪工場	コード (1218) LED照明導入	照度管理が不要なエリアの照明器具を LED照明へ取替え省エネを図る。(平成 27年度一部実施 全体の約2割、平成28 年度一部実施 全体の約2割)	27 年度 ～ 29 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府吹田市南吹田 4丁目20番1号	氏名	北越紀州製紙株式会社 大阪工場 工場長 大町 伸一
特定事業者の主たる業種		14パルプ・紙・紙加工品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に、紙加工品の製造、販売を行っております。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	3,447 t-CO ₂	3,080 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,607 t-CO ₂	3,230 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3.1 %	-0.6 %	6.1 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-0.5 %	5.9 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

削減目標に比べて生産量低下があり削減率は悪化傾向であったが、工場小集団活動で省エネをテーマに活動した成果と地道な照明器具のLED化で削減目標が達成された。

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

・推進組織としては、本社組織の環境統括部の下にエネルギー部会をおき、各工場に事務局・分科会を設けています。また、2001年に大阪工場はISO14001を認証取得し、環境マネジメントシステムに基づき、環境影響及びリスクの低減・予防、従業員教育に取り組んでいます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	大阪工場	コード(5221)老朽コンプレッサーを省エネタイプに更新	老朽化したコンプレッサーを省エネタイプに更新する(年間35.8t-CO2を削減計画) →(年間43.1t-CO2を削減)	27年度
	レ 人工排熱				27年度
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	大阪工場	コード(1121)No.1貫流ボイラ燃料削減装置設置	No.1貫流ボイラに燃料削減装置を設置する事により燃焼効率アップを図る →テストを実施すると逆に効率が悪化した為、中止	27年度
	レ 人工排熱				27年度
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	大阪工場	コード(1121)No.2貫流ボイラ燃料削減装置設置	No.2貫流ボイラに燃料削減装置を設置する事により燃焼効率アップを図る →テストを実施すると逆に効率が悪化した為、中止	28年度
	レ 人工排熱				28年度
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	大阪工場	コード(1114)フィルタープレス機のエア漏れ無し運転	フィルタープレス機の消費エア量の見える化で職場の意識が変わりエア漏れを無くした、効率運転が可能になった(計年間14.0t-CO2を削減)	27年度
	レ 人工排熱				27年度
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	大阪工場	コード(1218)仕上倉庫(旧平判選別)の照明器具のLED化と間引き照明	仕上倉庫(旧平判選別)の照明器具のLED化(合計年間4.6t-CO2を削減) 40Wx2→16.3WをLED化25台運転 照明機器25台間引き 照明SWの増設で適時消灯が可能	27年度
	レ 人工排熱				27年度
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	大阪工場	コード(1218)故障した照明器具をLEDで更新	不良蛍光灯器具を修理する際にを高効率のLEDに更新(計13台) (合計年間1.6t-CO2を削減)	27年度
	レ 人工排熱				27年度
	レ 平準化				
7	レ GHG排出	大阪工場	コード(1218)故障した照明器具をLEDで更新	不良蛍光灯器具を修理する際にを高効率のLEDに更新(計21台) (合計年間1.7t-CO2を削減)	28年度
	レ 人工排熱				28年度
	レ 平準化				
8	レ GHG排出	大阪工場	コード(1125)3号抄紙機用トランスの電源遮断して他のトランスより送電を行い無負荷損をゼロにする	動力1000KVA, 電灯100KVA (合計年間0.7t-CO2を削減)	28年度
	レ 人工排熱				28年度
	レ 平準化				
9	レ GHG排出	大阪工場	コード(1126)インバーター	攪拌能力を保ちながら、回転を下げ省エネを計る2.2kwモーター (合計年間2.2t-CO2を削減)	28年度
	レ 人工排熱				28年度
	レ 平準化				
10	レ GHG排出	大阪工場	コード(1218)仕上倉庫(旧平判選別)の電源ケーブル及び照明器具のLED化と間引き照明	仕上倉庫(旧平判選別)の電源ケーブル及び照明器具のLED化(計70台) 40w2灯用→40w1灯用相当LED (合計年間5.7t-CO2を削減)	28年度
	レ 人工排熱				28年度
	レ 平準化				
11	レ GHG排出	大阪工場	コード(1126)既設の空調機を高効率タイプに変更	既設の空調機を高効率タイプに変更する事で省エネを図る 圧縮機容量:1.79kw 3台、2.36kw 1台 (合計年間3.9t-CO2を削減)	28年度
	レ 人工排熱				28年度
	レ 平準化				

12	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1123) 冷却水の有効利用	コンデンサ水の冷却水回収水を2Cの仕込み水に利用して、チラー電力を削減する チラー装置合計5.87kwの停止 (合計年間14.9t-CO2を削減)	28年度
	レ	人工排熱				28年度
	レ	平準化				28年度
13	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1123) 冷却水の有効利用	2Cコンデンサ冷却水をクッカー清水に使用して蒸気量の削減 冬場の清水7.8℃を冷却水32℃を利用して省エネ(合計年間3.89t-CO2を削減)	28年度
	レ	人工排熱				28年度
	レ	平準化				28年度
14	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1125) 過剰な蒸気配管よりの放熱を削減	低圧蒸気貯め及び長距離蒸気配管から放熱がある。不用配管見直し且つ配管径を6Bより適正の2Bに変更。 (合計年間2.99t-CO2を削減)	28年度
	レ	人工排熱				28年度
	レ	平準化				28年度
15	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1122) 冷却水温度コントロールによる蒸気量の削減	2Cコンデンサ冷却水温度コントロールによる蒸気量の削減 冷却水に捨てていた熱量の回収となった (合計年間62.53t-CO2を削減)	28年度
	レ	人工排熱				28年度
	レ	平準化				28年度

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード(2123) エコドライブの協力依頼	委託先運送業者トラックのエコドライブ実施の協力を依頼する。	27年度
	レ	人工排熱				29年度
2	レ	GHG排出	大阪工場	コード(2124) 効率配送のための出荷品手配	委託先運送業者に効率配送となるに出荷手配を行う。	27年度
	レ	人工排熱				29年度
3	レ	GHG排出	大阪工場	コード(2124) 効率配送のための客先直送便の増加	効率配送のために中間倉庫運用を減らして客先直送便の増加を行う	27年度
	レ	人工排熱				29年度

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府岸和田市木材町17-2	氏名	ホクシン株式会社 代表取締役社長 入野 哲朗
特定事業者の主たる業種		12木材・木製品製造業（家具を除く）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		中質繊維板（MDF）の製造を行っており、工場及び事務所は1箇所（届出者住所と同じ）のみとなります。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	33,552 t-CO ₂	38,890 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	35,052 t-CO ₂	40,654 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
		削減率(原単位ベース)	3 %	-2.9 %	-0.2 %
削減率(平準化補正ベース)		-	-3.2 %	-0.3 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(年間生産量 トン)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>今年度は年間生産量の増大により前年と比較して原単位ベースでの温室効果ガス排出量を削減できた。また年度末より原材料の木材チップの種類を一部を変更せざるおえなくなった為、総電力の40%を占める解繊工程の消費エネルギーが増大し基準年度より温室効果ガスを削減することはかなわなかった。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

ISO推進委員会で、ISO14001 に基づいた環境マネジメントシステムを促進し、全社的での温暖化対策の取り組みを展開する。温室効果ガス排出対策の立案、実施の報告は、定期的に関催される省エネルギー委員会で展開する。また各部署で目標値、改善計画を策定し実施する体制を構築する。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	本社工場	コード (1126) 力率改善コン デンサの設置	力率改善コンデンサ設備を設置する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	本社工場	コード (1214) コージェネ レーション設 備の高効率稼 動	コージェネレーション設備における発電効率および熱効率の向上、運用の見直しにより総合的な高効率化を図る。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	本社工場	コード (1126) エアークン プレッサの高 効率稼動	エアークンプレッサの使用量低減や圧力損失低減策を講じて吐出圧力の低減を図る。また、老朽化に伴う順次更新を計画する。28年度は1台更新を実施。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
4	レ GHG排出	本社工場	コード (1126) インバータ制 御化	ファンやポンプの回転数制御化による消費電力の削減を図る。28年度は集塵機のファンのインバーター化を実施した。	28 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
5	レ GHG排出	本社工場	コード (1123) 蒸気ドレンや 廃熱の有効利 用	蒸気ドレンや廃熱の熱源を有効利用する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
6	レ GHG排出	本社工場	コード (1126) 変圧器の高効 率稼動	変圧器を高効率の変圧器に順次更新	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
7	レ GHG排出	本社工場	コード (1113) 製造ラインの 生産性向上	生産ラインの稼働効率および生産性の向上を図る。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
8	レ GHG排出	本社工場	コード (1111) 省エネルギー 委員会の見直 し	省エネ委員会の組織および運用を定期的に見直し、適切にエネルギー使用の合理化活動を実施できる体制とする。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
9	レ GHG排出	本社工場	コード (1216) 空気調和設備 の更新	老朽化した空気調和設備を計画して更新する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
10	レ GHG排出	本社工場	コード (1199) 調湿工程の簡 略化によるエ ネルギーの削 減	調湿工程を簡略化し、蒸気および電気エネルギーの削減を図る。未調湿による生産テストを実施、未調湿に向けたテスト機を実装した。	28 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
11	レ GHG排出	本社工場	コード (1199) ワックス変更 から保温用熱 エネルギーの 削減	溶融ワックスタンクの保温蒸気削減	29 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

12	レ	GHG排出	本社工場	コード (1199) 接着剤合成に必要な電気・エネルギーの削減	接着剤内製化から外部購入にシフト	28 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
13	レ	GHG排出	本社工場	コード (1199) 解繊電力エネルギーの削減	木材チップの種類変更による電力増を抑える為、木材チップのオーバーサイズをなくす設備を検討。	28 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
14	レ	GHG排出	本社工場	コード (1199) 解繊装置への水混入量を監視	解繊装置への水混入量を監視しできるだけ削減することで、後工程での乾燥エネルギーを削減する。	28 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市旭区赤川1丁目11番8号	氏名	北港観光バス株式会社 代表取締役 坂本 和也
特定事業者の主たる業種		43道路旅客運送業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に大阪府下での一般貸切・一般乗合。特定旅客運送事業を行う。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	4,197 t-CO ₂	4,453 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,197 t-CO ₂	0 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	0.2 %	-6.1 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0 %	0 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>省エネ運転の徹底はもちろん実施いたしましたが、平成28年7月に新しく天美営業所を設立し、マイクロバス8台にてスタート。又4月以降に新車12台購入し廃車も12台致しましたが、中古車の購入も2台あり前年より10台増していることが影響していると考えます。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

運輸安全マネジメント推進メンバー及び運行管理者の研修会を実施し、ドライバーへの指導力を向上させる。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出		コード		27年度 ～ 30年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2121)	最新規制車及び低燃費車への代替推進 低燃費車の導入	27年度 ～ 30年度
	人工排熱				
2	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2123)	アイドリング時間の適正化を指導 エコドライブ	27年度 ～ 30年度
	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	兵庫県川西市1丁目1番24号	氏名	ボルト株式会社 代表取締役社長 伊藤 聡
特定事業者の主たる業種		32 その他の製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ボルト株式会社は大阪府能勢工場、兵庫県川西工場、岐阜県岐阜工場の3事業場で構成され主に自動車メーカーに製品を出荷している。そのうち能勢工場ではエンジン用特殊ボルト成形、熱処理。ピストンピンの切削、研磨。パイプの曲げユニオンろう付け品などを生産している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	4,640 t-CO ₂	4,087 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,999 t-CO ₂	4,406 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	-21.2 %	-26.6 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		- %	-20.8 %	-26.7 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (能勢工場の売上高)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>H28年の原油換算エネルギーは1965klと前年比101.4%と微増に留まっているが、原単位の分母(売上高)の減少が前年比97.2%と大きく、エネルギー使用量が微増にもかかわらずエネルギー使用量原単位が104.4%に悪化している。この分母である売上高の減少は、熊本地震の影響による自動車生産の一時停止と燃費偽発見による自動車生産・販売の一時停止の影響で、上半期の軽自動車の販売が低迷した事が大きい。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

兵庫県、岐阜県の3工場を統括した推進体制構築

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	能勢工場	コード (1111) 管理体制の整備	部門別の削減目標管理体制を整備し全員参加でエネルギー削減に取り組む	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	能勢工場	コード (1112) 多消費設備のエネルギー管理	熱処理炉、ろう付け炉、コンプレッサーなどのエネルギー多消費設備のエネルギー計測を行い温室効果ガス削減効果の高い対策に繋げる	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	能勢工場	コード (1113) 生産効率の向上	日常点検、月例点検を製造部オペレーターが実施することで工程ロス、歩留りロスを低減し生産効率を上げる	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	能勢工場	コード (1114) 保守及び点検の適正実施	日常点検、月例点検を製造部オペレーターが実施することで工程ロス、分留りロスを低減し生産効率を上げる	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	能勢工場	コード (1122) 製造工程の改善	工程改善による熱処理炉の運転時間短縮、休日や夜間の設定温度低下	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	能勢工場	コード (2114) 運転管理・保守点検の適正実施	車両ごとの燃費や走行距離記録、日常点検の実施などで維持管理を強化する	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	能勢工場	コード (2113) エコドライブの実践	エコドライブの実践。定期便の見直し削減。製造工程の設備稼働率向上による臨時便の削減。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

--

実績報告書

	住所	東京都千代田区霞が関三丁目3番2号	氏名	合同会社ホワイトライズインベストメント 代表社員 一般社団法人福祿寿キャピタル 職務執行者 福永 隆明
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		オフィスビルなどの不動産賃貸		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
平成	27年	4月	1日	～平成	30年
					3月
					31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	7,537 t-CO ₂	7,488 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	8,928 t-CO ₂	8,855 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29年度)	第1年度 (27年度)	第2年度 (28年度)	第3年度 (0年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3%	3.1%	0.7%
		削減率(原単位ベース)	0%	0%	0%
削減率(平準化補正ベース)		—%	3.3%	0.9%	0%
吸収量による削減率		0%	0%	0%	0%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (65029.29m²)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

昨年度はビル全体の入居率が上がった事により、電力使用量が増加した為に27年度に比較して削減率が大きく下がる結果となりました。今後空調機の更新等を更に推し進め、エネルギーの削減を図りたいと思います。

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

大阪国際ビルディングでは省エネルギーに関して電力量の削減が効果が大きいので、防災センターにてデマンド監視による使用電力の削減や空調機器等の効率的な運用を通じて、更なる不要な使用エネルギーの削減や設備の更新等の提案による省エネを推進致します。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	大阪国際ビルディング	コード(1113) 各設備の運用改善	エネルギー管理基準の適宜見直しを行うと共に、適切な運用を実施し、エネルギー量を削減する。(照明器具及び空調機不要分停止) 53t-CO2(87,840kWh)削減	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	大阪国際ビルディング	コード(1216) 空調設備の更新	空調機及び空調機用冷温水ポンプのモーター(インバーター制御に変更)の更新。また、熱源設備の更新(冷温水使用からヒートポンプへ)。 41t-CO2(68,000kwh)削減	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策
